

私が教育委員になって、変わったこと

多治見市教育委員会 教育委員 木下 貴子

小学生の頃、係の子がプリントを回していた。私の少し前で授業開始のチャイムが鳴った。けれど、そのまま回し続けられて私のところに来た。私は、授業が始まったのに、関係ないプリントをこのまま回し続けていいのかなって思った。けど、回さないと後ろの子が困るかな、ここまでも回してきていたし、と思って、次の子に回した。そうしたら先生が突然私のところに来て怒った。「授業始まっているのに、なぜ回しているんだ」立たされた。今でもその時の光景を時々思い出す。「前の子たちも回していたのになぜ私だけに怒るのだろう」これが子供の時、私が感じたことだった。

私の母は幼稚園の先生をしていた。でも、母としてはいつも私と姉2人の子供の味方だった。だから私が先生に怒られたことが納得できないでいると母親が学校に電話してくれた。場合によっては学校に乗り込んでいた。母は絶対に私の味方だと思えることで、安心して何でも話げできた。

今私は2人の子の母親となった。息子は発達障がいと診断されている。隠したい子もいるから、私が発言するのは息子にとってよくないのではないかと、と言われることもある。確かにそう。子と親の気持ちは違う。でも苦しかった。子供に近視があっても、通常隠されていない。これを親が他の人に言っても通常問題にされない。発達障がいは、それを伝えると子供が差別されてしまうかもしれない恐れがあるから、問題になるのだ。視力が悪くても、それを隠さなくていいように、発達障害も差別の対象とならない、当たり前になる世界が広がっていくといいなと母親として思う。現実には、その割合が増えていることも教育現場から今聞いている。もっと増えていけば、メガネが必要な視力が低下している子供と同じように同じ教室の中で、差別されることなく学べる研究も進んでいくのではないかな、と思う。

教育委員になって久しぶりに中学校時の先生、丸山先生に会った。中学校の頃、ちゃんと私のこと見守ってくれていたのを知って嬉しかった。教育長訪問等では、各学校を訪れて先生の話聞いた。こんなに先生達が子供たちに愛情をもって接していることを知った。教育委員をやった良かったのは、子供の立場、保護者の立場、また普段の弁護士として相談にのる立場と別に、先生側という立場で見る経験も得られたこと。多角的に物事が見られる事で、すぐに相手を批判することを避けられると思う。これからも、子、親、先生がどう考えているのか、意識したいと思う。ただ保護者としてはやはり子どもの味方でいたいので、時々勇気を持って教育現場に乗り込むこともあると思う。それはどうか許してほしい。子供たちも色々な立場で様々な経験をすることで多角的に物事を考える体験ができたらと思う。

もうすぐ教育委員になって8年。本当にありがとうございました。

部活動

関ヶ原町教育委員会 教育委員 小林 洋

年も押し迫った12月24日、京都の大学へ進学した息子のアパートへ差し入れを届けに行きました。

実は、春からこの日に行くことは決めていました。毎年年末の都大路で行われる全国高校駅伝を観戦するためです。昨年春、息子とアパートを決めたこの場所の最寄り駅が国際会館と知り、高校時代のことを思い出したからです。

私は、陸上部の長距離部に所属していました。当時は、部活のお休みの月曜日以外、毎日部活がありました。今とは違い土曜日にも授業があり、午後からはたっぷり部活。日曜日にも試合以外は朝から部活でした。だから、高校時代は試合の日、お盆、お正月休みなどを除いて、ほぼ毎日学校に行っていました。家では、「部活のために学校に行っているのだろ?」とも言われていました。

トラックのレースは全員走れましたが、団体戦としての駅伝は別。部内でタイムを出した選手しか選ばれません。「全国大会に出るぞ!京都で走るぞ!」と同じ目標に向かい、先輩や後輩などみんなで意見を出し合い、自分たちでより良い練習方法を考えたりしていました。縦の関係にも恵まれて、居心地が良いのが長距離部の伝統でした。この環境が、辛い練習にも耐え諦めず頑張れたことが、今にも繋がっていると思います。

今回、折り返し地点でレースの雰囲気を楽しみました。変わらない襷を受け渡すときの掛け合いの言葉に懐かしさが…。レースは、昨年2位だったチームが、その悔しさをばねに努力した結果、大会新記録で評判通りの圧勝。盛り上がったレースになりました。選手が試合後、「応援してくれる人や支えてくれる人に喜んでもらえる結果を残すことが目標」とのコメントを聞き、子ども達の部活動に対する考え方に感動しました。

僕らの時代には当たり前だった部活動も、昨今では少子化の影響で、部活動の数が減ったり、チームが成立しなかったり、地域クラブへ移行したりとずいぶん変わってきました。部活動に対してはいろいろな考え方あると思います。「部活やりすぎ!」といわれていた僕らの時代とは環境も変わってきています。共通の趣味の子が集まれる場所が学校の部活だったと思っています。

子どもたちには、短い学生生活の間に一つでも多く思い出を残してほしいと思います。